よらば、我國の俗に、高き山の踰て、上下しつべきを、タウゲといひて、峠の字創造りて、其字とするは卽嶺也、タウケとは、タは高也、萬葉集抄にみゆ　ウケは穿也、高山を穿ち過ぬる道なれば、タウケといふ、古事記に、神倭伊波禮毘古命、吉野山より踏穿越て、宇陀に幸ますといふが如きこれ也、

〔倭訓栞前編十四多〕たふけ　嶺をいふ、峠字は倭の俗字也、手向の神、多く坂の嶺にまして、越行人は必ずこれを祭れば、たむけを轉じて、たふげといふ也といへり、万葉集に、

かしこみとのらずありしをみこしぢのたむけに立て妹がなのりつ

〔類聚名物考地理十四〕山の手向　やまのたむけ

たむけは、今俗に云ふたふけにて、峠を俗字に書り、たとへば此國より出て、他國へ行には、その堺の山の頂にて、恙なく歸り來らんことを神に祈る、是を手向の祭と云ふ、祖餞などいへり、よて相かよひていふならん、

〔新撰字鏡土〕坡　陂同作普何反、平、坂也、以土雍水也、佐加、　坻眞爾、之爾二反、坂也、佐加、

〔倭名類聚抄一山谷〕坂嶝　唐韻云坂、地險也和名左加　嶝小坂也、都鄧反、

〔箋注倭名類聚抄一石〕廣本脫音反二字、新撰字鏡、坡坻幷訓佐加、按佐加、蓋志奈加之急呼、謂土地崎嶇不平爲志奈、階級科等字訓志奈是也、加謂處也、謂住處爲須美加、謂在處爲阿利加是也、○略中　廣韻云、阪大陂不平坂上同、與此不同、玉篇阪險也、呂氏阪險原濕注、阪險傾危也、卽此義、按說文又作阪、云坡者曰阪、則知从土作坂俗字、王念孫曰、阪之言反側也、又曰、陂阪聲相近、○略中　昌平本鄧作登、伊勢廣本同、按都鄧與廣韻合、卽去聲四十八、嶝字登卽平聲十七、鄧字作登誤、○略中　廣韻同、玄應音義引蒼頡云、嶝小坂也、孫氏蓋依之、集韻云、隥或作嶝、說文隥仰也、則知訓小阪者轉注也、王念孫曰、隥之言登也、閣道謂之隥道、義亦同也、

〔段注說文解字十三下土〕坂　阪也自部曰、坡者曰阪、此二篆轉注也、又曰陂阪也、是坡陂二字音義皆同也、坡謂其陂陀毛詩隰則有泮、傳曰、泮坡也、此釋叚借之法、謂泮卽坡